

大婚満廿五年の祝典「ことほぎ」ひ奉る

助教授

園哲雄作歌

第一 段

乙が夫君のみきさきに
 囀る 谷の鶯も
 契るけふころめでたけれ

立ちたまふより二十まり
 匂ふさくら乃花に猶
 契るけふころめでたけれ

五つの年のことほぎに
 いく万つ代の春かけて

第二 段

かしこき御前に参集る
 齢老いたる民艸を
 榮行く御代ころうれしけれ

百の官をはじめとし
 深くいたはり賜はれる
 榮行く御代ころうれしけれ

君がめぐみの波ひろく
 黄金の多の数のこと

大婚満廿五年の祝典を祝ひ奉る歌

助教授

黒本植作歌

第一 段

神代も聞かぬ天皇の
 春の彌生の今宵しも
 君を八千代と祝ふあり

長き御合の年の緒を
 熊本城のくまもなく
 君を八千代と祝ふあり

ことほぐ始しらま戸
 花をかざしの賑ひは

第二 段

高く捧ぐるともしびの
 まさきの葛末あかく

天津みろらの星のごと
 契りまします大君の

八十の衢に輝くは
 幾代の數にとりなして

御稜威の光を仰ぐあり

御稜威の光を仰ぐなり

第三段

こがねの峰もしら雲の

たつたの山も千代よばふ

聲うちろへて高らかに

歌ひ巡るも君と代の

今日の吉事を祝ふある

心つくしのますら男の

只一すぢにいさむあり

只一すぢにいさむあり

醍醐天皇

教授

笠間益三

人君者以一人位於億兆之上。而天下之事一日萬機。固不可以一人而治也。故舉賢進能。上下大小各授其職。任其責。而後天下治也。然用人之難。有不可言者焉。何則。舉賢進能。我之所大欲也。我既以爲賢矣。而其人或非賢。則未可謂能用人也。我既以爲能矣。而其人或非能。則未可謂能用人也。擯姦逐邪。則亦我之所欲也。我既以爲姦邪矣。而其人或非姦邪。則謂之善捨人可乎。故用人固難也。知人爲尤難矣。自古雖有明知聰敏。可有與爲之君。往往失於不知人也。而其心自謂能。用賢能。能擯姦邪。孜孜圖治。朝夕不暇。可謂勤矣。而及其功績。則不足以述祖宗之法。不足以貽子孫之謀。孟子所謂徒法不能自行者也。如延喜之朝。君臣勉政而不怠。文物制度爛然可觀。後世言治者稱延喜。而至用人則大不然也。非不欲用賢也。不知賢也。菅原道真。當時才德無比。不可不謂賢也。宇多帝知之。故其禪位。教帝用之。帝舉而加之相位。可謂善用人也。而及一旦聞時平等之讒。則毫髮不疑。貶竄之如